

|                      |        |        |     |       |       |
|----------------------|--------|--------|-----|-------|-------|
| 英語1B<br>(English 1B) |        |        |     | 担当教員  |       |
|                      |        |        |     | 非常勤講師 | 児玉 一宏 |
|                      |        |        |     | 非常勤講師 | 藤原 由美 |
| 科目群                  | 開講期    | 単位数    | 必修等 |       |       |
| 外国語                  | 1年次 後期 | 1.5 単位 | 必修  |       |       |

#### 【概要】

本授業では、近年の言語学の研究成果を踏まえ、英語運用能力の向上に繋がる文法知識の習得を目的とする。「受験英語」とは異なる視点に立ち、英語母語話者が獲得している文法知識を探りながら、学習者の文法意識の高揚を目指したい。生成文法、語彙意味論、構文文法など、理論言語学の知見を活用し、英語に関する興味深い事象や法則を平易に講義する。また、必要に応じて英文読解や和文英訳の演習を行う。言葉の不思議、言葉について思索することの面白さを教授したい。

#### 【授業の一般目標と、準備学習】

本授業では、音韻論、形態論、統語論、意味論など言語研究の諸領域に足を踏み入れ、英語の背後に隠されている興味深い法則の発見に努める。また、子どもの言語習得過程について学習することで英文法を原理的に理解し、今後の英語学習への動機付けを図りたい。必要に応じて、教科書を活用して授業時間外の英語学習にも積極的に取り組んでいただく。授業内容の予習復習だけでなく、課題の提出、授業中の口頭発表を求める。単位修得には履修者の相当な努力と熱意が必須である。

#### 【学習項目・学生の到達目標】

| No | 学習項目      | 担当教員      | 学生の到達目標           |
|----|-----------|-----------|-------------------|
| 1  | 導入        | 児玉一<br>藤原 | 「文法」を学ぶ意義を理解する    |
| 2  | 言葉の不思議①   | 児玉一<br>藤原 | 発音と文法について学ぶ       |
| 3  | 言葉の不思議②   | 児玉一<br>藤原 | 同上                |
| 4  | 言葉の不思議③   | 児玉一<br>藤原 | 英語史と英文法の諸相について学ぶ  |
| 5  | 言葉の不思議④   | 児玉一<br>藤原 | 同上                |
| 6  | 動詞意味論と構文① | 児玉一<br>藤原 | 動詞の諸相について学ぶ       |
| 7  | 動詞意味論と構文② | 児玉一<br>藤原 | 同上                |
| 8  | 構文文法①     | 児玉一<br>藤原 | 動詞と構文の相関の仕組みを学ぶ   |
| 9  | 構文文法②     | 児玉一<br>藤原 | 同上                |
| 10 | 言語習得①     | 児玉一<br>藤原 | 構文文法と英語構文の習得過程を学ぶ |
| 11 | 言語習得②     | 児玉一<br>藤原 | 同上                |
| 12 | 言語習得③     | 児玉一<br>藤原 | 同上                |
| 13 | 言語習得④     | 児玉一<br>藤原 | 同上                |
| 14 | まとめ       | 児玉一<br>藤原 | 授業内容を復習し、理解を深める   |
| 15 | 総括・まとめ    |           |                   |

(書名)  
教科書 言語習得と用法基盤モデル  
参考書 言語学の領域 (I)

(著者・編者)  
山梨正明 (編)  
中島平三 (編)

(発行所)  
研究社  
朝倉書店

【成績評価方法・基準】

授業への参加態度、課題提出、小テスト、授業中試験の成績を総合的に評価する。

【備考】(担当教員に対する質問等の連絡方法)

授業時にアポイントをとってください。